

自治協議会が元気な地域づくりの  
今、を発信



## 大石地区

(No.6)

支え合う  
地域づくりへ

「暑い中、草取りありがとうございます」「遠慮なく頼んでください」と笑顔でお礼を言われ、笑顔で答える。大石地区の目標は、「人と人とのつながりを大切にし、世代を超えた笑顔あふれるまち大石」です。世帯数は999戸、人口は2673人です。大石小学校の児童数もだんだんと減少していますが、いつも笑顔で元気よく私たちにあいさつをしてくれます。



▲国体記念大石堰駅伝競走大会  
に31チームが参加(1月15日、  
大石放水路にて)

災計画の策定や防災訓練等を行い、さらに安心して暮らせる地域づくりを目指していきます。さて、大石地区自治協議会も発足して4年目を迎え、旧大石公民館からの貴重な財産(廻上げ大会や国体記念駅伝大会等)を引き継ぎながらも、地区住民の意見を取り入れた新たな取組にも挑戦しています。みんなが住んでよかつたと思える地域づくりへ、今後も住民と自治協議会、そして市や社会福祉協議会等と協働していきたいと思います。

西日本新聞や社協だより「ふしおかわら版」にも掲載され、ご存じの方もおられるかと思いますが、7月27日に住民型有償サービス「おおいし絆(きずな)クラブ」を立ち上げ、高齢者や障がい者等の生活支援サービスを始めました。発足のきっかけは、地域計画の策定や自治協議会独自の地域福祉の生活支援サービスを始めた。しかし、大石地区は昭和28年の大水害で甚大な被害を受けた地域であり、地区としての防災体制の取組が急がれます。今後、地区防



▲お手伝いを「頼みたい」「したい」どちらの会員も募集中です

ことになり、先進地視察や検討委員会を発足させ、半年以上議論を重ね、ようやく設立に至った次第です。8月末現在で、お手伝いをする協力登録会員37名、利用登録会員7名とまだ少ないですが、発足したばかりであり、今後の高齢化社会を考えるとき、そして安心して暮らせる地域福祉社会づくりのために、なくてはならない制度だと思います。遠慮なく助け、助けられる関係で大きな住民同士の絆と信頼が生まれ、世代を超えた笑顔あふれるまち大石づくりに、汗をかいていきたいと思います。



▲困った時はお互い様(8月4日、10日の豪雨災害料理ボランティアにのべ39名が参加。杷木らくゆう館にて)